

2025 年 12 月 7 日

明治大学校友会東京都多摩支部
企画委員会 副委員長 大河内公夫

ラグビー明早戦の応援観戦報告

12月7日（日）関東大学ラグビー対抗戦Aグループの雌雄を決する、第101回「明治大学-早稲田大学」戦は、穏やかな天候の中、国立競技場で行われました。

校歌の大合唱で幕を開けた伝統の一戦には、全体入場者数39,084人で、多摩支部からは18地域支部122名が観戦し、バックスタンド1階左よりに陣取り、逆転優勝を祈念しながら大声援を送りました。

試合内容は、前半開始後、早稲田の日本代表フルバックに鋭いステップでの先制トライを許したものの、対抗戦前半の反省点と帝京戦で成功した徹底した戦術の展開を踏まえ、鉄壁なラインディフェンスを敷きました。スクラムではレフリーとの呼吸が合わず、若干劣勢だったものの、ラインアウトでは立ち上がりから明治らしさを発揮して、「前へ」の精神を基に紫紺ジャージーのFW陣が一体となって押し込み、ラインアウトからモールを組んでトライを上げました。前半戦は、双方が1トライ・1ゴール、1PGの10-10で終了しました。

ハーフタイムでは、両チームのチアリーダーによる演舞が華やかに行われ、後半に入ってから5分にキックモーションの大きな相手スタンドオフの弱点を突いたキックチャージが成功し、逆転トライを上げ、試合の流れを呼び込みました。しかし、その後、攻撃や防御においては前半同様に頑張っているものの、スクラムやラックにおいて不用意な反則を重ね、早稲田にペナルティキックを着実に決められ、安全な点差に広げることができない状況が続きました。

その中で、後半31分には、再度ラインアウトからモールを押し込み待望のトライを挙げ、1トライ1ゴールでは逆転できない9点差まで広げました。残り時間9分で逃げ切れるかどうかの瀬戸際でしたが、ラックの中での反則によってペナルティゴールを決められ6点差となりました。更に早稲田のバックスラインを中心とした波状攻撃によってゴールライン間際まで追い詰められましたが、早稲田側のラックでのノックフォワードによって、スクラムとなり最終的にはエンドラインに蹴り出して、時間切れの笛が鳴り響きました。最終的には25-19でノーサイドとなり、対抗戦Aグループの優勝を勝ち取ることが出来ました。

次の決戦は、12/20の全国大学ラグビーフットボール選手権大会準々決勝となります。本日の試合で5年ぶり19度目の優勝をすることは出来ましたが、スクラムを起点として多くの反則を取られるなど、課題は残されておりますので、残された期間で万全な体制を構築すべく、弱点を強化して『栄冠』を勝ち取れるように頑張ってもらいたいと思います。引き続き応援を宜しくお願い致します。

<明早戦観戦状況>



(開始前の電光掲示板)



(スクラムの攻防)



(ラインアウトの攻防)



(チアリーダーの応援)

明治大学										早稲田大学									
R	17	山	源介	PR	1	杉	本	伊	前	PR	1	杉	本	伊	前				
NO	2	野	水	NO	2	清	水	NO	2	清	水	NO	2	清	水				
R	18	佐	木	LO	3	山	平	R	18	佐	木	LO	3	山	平				
LO	4	佐	木	LO	4	佐	木	LO	4	佐	木	LO	4	佐	木				
R	19	佐	木	FL	5	佐	木	R	19	佐	木	FL	5	佐	木				
FL	6	佐	木	R	20	佐	木	FL	6	佐	木	R	20	佐	木				
R	21	佐	木	R	21	佐	木	R	21	佐	木	R	21	佐	木				
SO	22	佐	木	SO	22	佐	木	SO	22	佐	木	SO	22	佐	木				
R	23	佐	木	CTB	12	佐	木	R	23	佐	木	CTB	12	佐	木				
CTB	13	佐	木	CTB	13	佐	木	CTB	13	佐	木	CTB	13	佐	木				
WB	14	佐	木	WB	14	佐	木	WB	14	佐	木	WB	14	佐	木				
FB	15	佐	木	FB	15	佐	木	FB	15	佐	木	FB	15	佐	木				

(試合結果;電光掲示板)



(祝勝会での支部長挨拶)



(祝勝会での全体写真)

<第62回全国大学ラグビーフットボール選手権大会>

